

■ 流通業者・学識経験者

4社・者に下記の聞き取り項目を記した調査票を事前に送付し、聞き取り調査を実施。

項目
1. 韓国における漁網メーカーの数
2. 韓国における中国メーカー製漁網の占める割合
3. 韓国国内メーカー製漁網と中国メーカー製漁網の価格及び品質上の違い

- 漁船は流通の都合上国産が寡占状態、漁具・漁網は消耗品を中心に海外製が普及

項目	海外製漁業資材の使用状況
漁船	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的には、漁業者が漁船を購入する際に相談するのは、国内の造船所、造船会社。 ・ 遠洋漁業の場合は、海外の漁船造船関係者への発注も検討するが、沿岸・沖合漁業は国内への傾注が顕著になる。 ・ 日本国内に韓国や台湾等の造船所(漁船向け)の代理店がない。
漁網・漁具	<p>【原反(網地)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本製：品質(耐久性、目の正確さ)が高いが、価格も高い。 ・ 東南アジア(タイ、インドネシア等)製：品質は悪くなく価格は安い。 ・ 中国製：品質が悪く、価格は東南アジア製よりも高い。 ・ 品質の良さ：日本>東南アジア(タイ、インドネシア等)>中国 ・ 価格の安さ：東南アジア(タイ、インドネシア等)>中国>日本 ※中国製は、品質と価格の両面で東南アジア製に劣る傾向がある ・ 安い網が欲しい場合：東南アジア製、品質の良い網が欲しい場合：日本製 ・ サプライヤー、ユーザーともに中国製を選択するメリットはあまりない <p>【定置網】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 価格よりも品質が重視される傾向がある(耐用年数が長いため。) ・ 使用期間：数年～10年単位 ・ 現在は、日本の企業が製造した漁網(原反)の方が耐久性があり、長期間の使用や悪条件下での使用にも耐えるためニーズが高い。 <p>【刺網】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質よりも価格が重視される傾向がある(耐用年数が短い消耗品であるため。) ・ 使用期間：数年単位 ・ 消耗品であること消費する数も多くなるため安さが求められる。 ・ 質(耐久性、しなやかさ)の良い刺網を求める傾向もある。 ・ 国産のものは高くても長期間使えるため、長期的にみるとコストは海外産のものと大差ない場合もある。 ・ ナイロンモノフィラメント製刺網の交換頻度の例：国産で3年おき、東南アジア製で1年おきの修理の手間もあるため、単純に比較できないが、価格が1/3であれば東南アジア製を選択、それ以上であれば、国産を選択する可能性がある。

項目	海外製漁業資材の使用状況
漁網・漁具	<p>【かご類(カニ、カキ養殖など)】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用期間：数年単位 • 消耗品であること、一漁業経営体が使用する数が多ことから安さが求められる。 • 網と比較して単位当たり複雑な構造で工程が増えることから、原価のうち人件費が占める割合が高く人件費の安い地域で生産することに最大のメリットがある。 • 日本国内で完成品まで生産しているメーカーは他の漁具に比べ少ない。
種苗	<p>【カンパチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 産卵海域が日本の周辺ではないため、日本国内では天然採捕はほとんど行われていない。 • 国内ではモジャコ(ブリの稚魚)の採捕時に混獲されることもあるがごく少量にとどまる。 • 中国などの海外産種苗が国内流通量の多数を占めるが、過去に中国産種苗にはアニサキスが寄生していて生食ができなくなった問題もあり、人工種苗の生産も一部では行われているが、受精卵から沖出しまでの歩留まりが低いいため技術的課題を抱えている。 <p>※カンパチ以外の養殖種苗では海外産の種苗を確認していない。</p>

- 生産量の半分を輸出している一方で、まき網やトロール等は海外製を使用しているため高性能な漁具・漁網の製造技術には課題があると考えられる。

項目	概要
韓国における漁網・漁具の市場、流通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原反、仕立てた漁具を輸出している企業がある。 ・ 韓国国内において、漁網・漁具の韓国国内の需要はそれほど大きくなく、生産量全体の50%は輸出している。 ・ 韓国の大手漁具メーカーは、KTI(漁具メーカー+販売店)に漁具を販売し、KTIは韓国の大手水産会社に漁具を供給している。KTIは、韓国国内外の両方に販売を展開している。 ・ 日本の大手漁具メーカーは、カゴや金具類を三信物産(販売店)から日本に仕入れて、日本の沿岸漁業の小規模漁業者に供給している。 ・ 韓国では、漁業者は、沿岸漁業用の漁具、近海漁業用の漁具、大型まき網は、韓国の国内メーカーから直接購入する。
漁業別の特徴	<p>【原反】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原反の材料を供給する大手石油系企業は2社。 <p>【まき網・底びき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国は、台湾、インド、日本から漁具を輸入しており、特にトロール網やまき網について輸入品を使うことが多い。日本の漁網・漁具は性能が良く、規模が大きい漁業で使用されているが、価格が高いため国産を使ったり、インド製や台湾製を使うこともある。 ・ トロール網は、ロシア向けに輸出されている。 ・ まき網は完成品も輸出されているが、まき網用の網地(原反)そのものを輸出する場合もある。 ・ 大型まき網は、韓国国内メーカーから購入している。 <p>【刺網】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 刺網は、生分解性を使用している例がある(ズワイガニ刺網漁)。 ・ 中国製の刺網を使用している漁業者もいる。 <p>【カゴ、金具】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商社を通じて日本に輸出している。 <p>【一本釣り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 釣針は中国製とベトナム製が、糸は韓国製が多い。

項目	概要
韓国における漁網メーカーの数	<ul style="list-style-type: none"> • 零細会社を除き30社程度。大手企業は6社程度。小規模な企業は地方に存在する。 • 網地を仕入れて漁具まで仕立てる企業は10社程度。網地を製造する会社が注文に応じて対応している。
韓国における中国メーカーの漁具の割合	<ul style="list-style-type: none"> • 刺網については、中国製も使用されている。 • 台湾やインドからも輸入されている。 • 刺網以外の漁網については、中国メーカーの割合はほぼ0%。質的、价格的なメリットが低いいため中国製品は韓国漁網市場にはほとんど参入していない。
韓国国内メーカー製漁網と中国メーカー製漁網の価格及び品質上の違い	<ul style="list-style-type: none"> • 現在のところ、品質面、価格面で中国産漁網を輸入して使用するメリットがない。 • 韓国製品でも中国製品に対抗できる価格であり品質面で優っているため中国製品は伸びない。ただし、韓国の最低賃金の上昇、韓国製品の価格上昇に伴い、韓国の漁具取扱業者は安価な中国製品が参入してくることを懸念している。